

2013.10/ No.138

大阪大学の今を紹介する情報誌

阪大 NOW

Topics

七大戦、終宴 大阪大学は総合3位
大学院学位記授与式を挙行

濃いつ! 阪大 — イチョウ編 —
なぜ阪大といえばイチョウなのか

03 Topics

七大戦、終宴 大阪大学は総合3位 大学院学位記授与式を挙行

06 濃いつ!阪大 — イチョウ編 —

なぜ阪大といえばイチョウなのか

16 濃いつ!阪大 — 教育研究編 —

「情けは人のためならず」を 日常生活において世界で初めて科学的に実証

18 役員室だより

23 阪大ほっとニュース

24 阪大百景

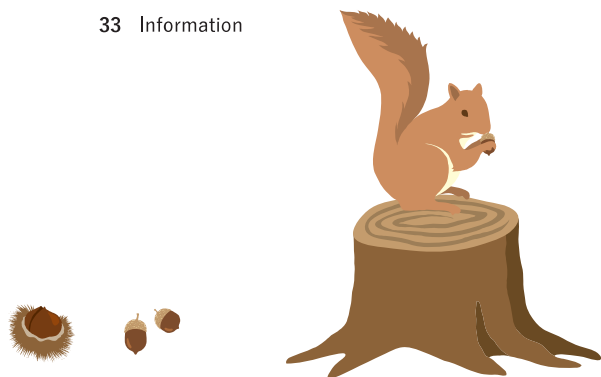
25 教職員インタビュー

26 阪大の組織 AtoZ

28 表彰・受賞等

32 人事/訃報

33 Information



表紙写真：豊中キャンパス正門の扉と月



表紙撮影：クリエイティブユニット

七大戦、終宴 大阪大学は総合3位

9月21日(土)、大阪大学会館講堂で
第52回全国七大学総合体育大会(通称:七大戦)の閉会式が行われました。
優勝は東北大学、準優勝が京都大学で、本学は第3位と健闘しました。
(23ページに関連記事)



大学院学位記授与式を挙

9月25日(水)に、コンベンションセンターMOホールで大学院学位記授与式が挙行され、平野俊夫総長から、修士52名、博士189名(うち論文博士21名)に学位記が授与されました。

平野総長式辞 <要旨> 「ノブレス・オブリージュ」

本日、大阪大学の修士・博士学位記授与式に出席されました皆さんに、心よりお祝いとお喜びを申し上げます。また、幼少の頃からこれまで、皆さんの勉学を日夜支えてこられましたご両親をはじめご家族の方々の長きにわたるご苦勞に対しまして、心より敬意を表したく存じます。

長く地道な研究を積み重ねられ、その集大成としての学位を取得されましたことは、皆さんの努力の結晶であり、大きな誇りでもあり、また、大阪大学にとっても貴重な財産・栄譽になります。大阪大学では、これまでに博士前期課程(修士課程)で6万人近くの方が、博士後期課程(博士課程)は2万5千人を超える方が学位を取得されています。この学術・研究の積み重ねこそが、こんにちの大阪大学の強い研究基盤を支えています。皆さんは、本日晴れて修士や博士の学位を取得され、一人ひとりがそれぞれの思いと期待を

抱き、これからの進むべき道や将来の希望に夢を膨らませておられることと思います。それと同時に、私も皆さんに大いなる夢を託したいと思います。

私が皆さんに期待すること、それはいかなる分野に進もうとも、常にその分野を究めたい、あるいは、その分野の信頼されるリーダーになっていただきたい。そのためには、大阪大学で皆さんがこれまで培ってこられた「物事の本質を見極める」能力を最大限に発揮し、ほかの誰にも負けない知識と経験と技量を積み、成果が実ることを願って日夜精進し、そして頂上を極めていただきたい、ということです。

本日のこの機会に、皆さんの心に是非とも刻んでいただきたい言葉があります。それは、「ノブレス・オブリージュ (Noblesse oblige; noble obligation)」という言葉です。「高貴さは責務を伴う」という意味で、特



に英国貴族が尊んだ精神です。すなわち選ばれた人には、それに相当する責務が求められるということです。皆さんは、伝統ある大阪大学で学ばれた者として、大きな誇り、強い自信、高い理想を持つとともに、この「ノブレス・オブリージュ」の言葉を忘れずに一人ひとりが社会人としての責務と役割を立派に果たしていただきたいと思っています。

第7代総長の赤堀四郎先生が遺された言葉に「雪埋梅花 不能埋香(雪、梅花を埋むるも、香りを埋むるをあたわず)」という漢詩があります。「雪の降り積もった野に立って、香りをたよりに花を探す人の心になってみると、わずかな現象の片鱗をたどって、未知の真理を探す科学者の心に通じるものがある」との意味に訳されます。言い換えますと、「自分が一生懸命やって得た成果であっても、すぐにはそれが認められないこともある。しかし、きっといつかは誰かがそれを分かってくれる。だから周りのことは気にせず、本気になって何かに没頭してみなさい」という趣旨の言葉です。赤堀先生は、世界的な有機化学者であり、たんばく質の研究などでも多くの発見をされ、その研究業績で1965年に文化勲章を受章されました。

赤堀先生は専門分野だけでなく、医学や薬学、生化学といった幅広い分野の学問も同時に学ばれ、のちにそのことが研究者として大成される基本になったとご自身で言われています。私の恩師であり、第11代総長の山村雄一先生はこのような赤堀先生の研究姿勢に惹かれ、医学部卒業にもかかわらず理学部の赤堀研究室の門を叩いたと回顧されています。その山村先生は「夢見て行い考えて祈る」という言葉を私た

※ 全文は本学公式ウェブページに掲載しています。



ちに残しておられます。「常に夢に向かって毎日必死に研鑽を積んで行く、そして自らの行ないを検証し、結果の裏に潜んでいる真理を考える。その結果は世の中にすぐに認められなくても真理であればいつかは認められるであろう。それは謙虚に祈るのみである」というように解釈できます。

これから皆さんは、企業や行政機関など第一線で活躍する社会人として、あるいは各種教育研究機関で次世代の人材を育成する教育者として、あるいは未来を切り拓く研究者として、そして一人の人間として、長い人生を送られるわけですが、あなたが幼いころ、希望とともに抱いた“夢”をいつまでも失わないでいただきたい。一瞬一瞬を大事にして、大いなる夢を持って輝ける未来に挑戦していただきたいと思います。そして、あなたの方の母校となるこの大阪大学をどうか末永く見守ってください。

最後になりましたが、どうぞ、「ノブレス・オブリージュ」という言葉を胸に刻み、皆さんの夢に向かって、目の前の山を一つ一つ登りきってください。皆さん一人ひとりがこれからの長い生涯、幸運に恵まれ、悔いのない人生を送られることを祈りつつ、私の式辞といたします。

本日は誠にありがとうございます。

平成25年9月25日

大阪大学総長

平野俊夫



なぜ阪大といえは

イチョウなのか

広報・社会学連携オフィス 松本紀文

毎年秋になるとイチョウが黄色く色づき、季節を感じさせてくれます。阪大のキャンパスにもイチョウが植えられており、阪大NOWでもたびたび写真や情報を掲載してきました。阪大のシンボルがイチョウであることの謂れやエピソード、また、イチョウをモチーフにしたものが学内には数多くあります。今号の阪大NOWでは、イチョウにまつわる話題を集めた「阪大とイチョウ」を特集しました。

「ルーツ」

黒津敏行先生（のちに医学部解剖学教授、故人）によると、大正8年（1919）、黒津先生が大阪府立医科大学3年のときに、予科が分離し、現在の待兼山に移転することが決まったのを機に、予科の徽章として黒津先生がイチョウを图案化し、当時の佐多愛彦学長が採用しました。

医科大の校庭にあった大イチョウをデザインしたと記録が残っていますが、この当時すでに制服のボタンにイチョウ模様が使用されていたらしく、医科大以前（府立高等医学校時代）からイチョウがシンボル化されていたと思われます。



予科時代の徽章



正門付近にあったイチョウ

「幻のイチョウの巨木」

昭和63年（1988）、大阪市法円坂の合同庁舎が建て替えることになり、庭にあった樹齢約300年、幹回り約7mのイチョウの巨木を切り倒す計画がありました。住民の保存運動もあって近畿財務局が移植先を探していたとこ

ろ、この話を耳にされた当時の熊谷信昭総長が阪大のシンボルツリーに是非譲り受けたいと要望され、吹田キャンパスの正門付近に移植しました。残念ながら枯死してしまい、今ではその雄姿を見ることはできなくなりました。

「学章デザイン」

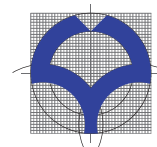
平成3年（1991）の創立60周年を記念して作られた大阪大学学章は、グラフィックデザイナーの田中一光氏（故人）の作品です。田中氏は制作意図を次のように説明しています。

「これまで慣例的に使用されてきた大阪大学の象徴は、向かいあった二枚の銀杏の葉によって視覚化されていたが、日本を代表する新しい時代の学府としてはもっと新鮮で力強い、国際的にも通用するシンプルなデザインが要求される。学旗、学章、印刷物からエンブレム、それに現代の様々なメディアや行事にも適用する新しい感覚と造型がこのシンボルマークを制作する上での課題。このシンボルマークはイチョウをモチーフに、OSAKAの「O」をどこかにしのばせながら、3つの円弧による最小限の造型の中にこれらの課題を盛り込むことを意図した。歴史ある大学としての知性と格調を失うことなく、大学、学生、市民へと連なる親近感を表現した」

なお、現在の学章のガイドラインなどについては、本誌12～13ページに詳しい説明があります。



慣例的に使用されてきた
本学の象徴



田中一光氏が制作した
シンボルマーク

1 | なぜ阪大といえばイチョウなのか

阪大イチョウ *Collection*

いろいろ見つかるイチョウのモチーフ



いちょう祭
本学の創立記念日(5月1日)を祝い、あわせて新入生を歓迎する目的で実施されます。協賛事業として学生によるスポーツ大会や、園遊会なども開催されます。
昭和38年の学報(第112号)には、「本学恒例の創立記念及び新入生歓迎の大運動会を、本年度から名称を『いちょう祭』に改め」とあり、その歴史をうかがわせます。



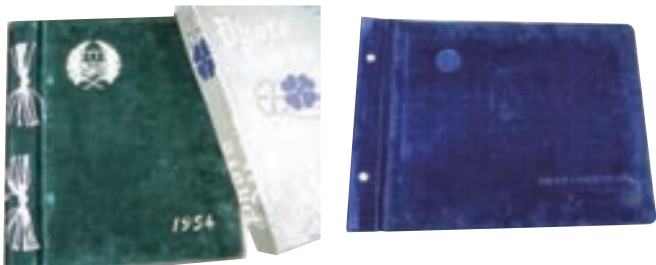
大阪大学医学部 銀杏会館
この建物の正式な名称は、「学友会館・医療情報センター」ですが、会館を親しみやすいものとするため、大学のシンボルでもある銀杏を取り入れて「銀杏会館」という愛称で呼ぶことといたしました。(医学系研究科)



細胞を印刷して作った阪大の学章
大阪大学の学章である銀杏のかたちをイメージして、ブルーに染色したマウス筋芽細胞株C2C12をインクジェット技術で銀杏のかたちに並べました。インクジェットプリンターの技術を応用して、インクの代わりに細胞を打って任意の図形パターンを印刷できる技術を研究室で開発しました。細胞を大量に高速に印刷できる技術で、未来の再生医療や創薬に役立つデバイスが阪大から生まれ育っていくことを期待しています。(工学研究科機械工学専攻 Ryanto The (森島研究室 M1) 製作)



キャンパス内のマンホール
現在のロゴがデザインされています。



応用化学科卒業アルバム
左：昭和29年(個人所有)、右：昭和30年(アーカイブズ所蔵)
旧校章マークがあしらわれていたアルバムです。現在は、生協が卒業アルバムを制作していますが、昔はそれぞれの学科が制作していました。旧校章は正規の校章ではないものの、学生服のボタンや帽子のマークにも使われ、当時の学生には誇りあるマークでした。(工学研究科 応用化学専攻 提供)



パンフレット「外来診療のご案内」
初来院時に患者さんが手にするパンフレットです。「いちょうの森」をモチーフに、「手に取りたくなる楽しいパンフレット」になるよう、平成24年にリニューアルしました。(医学部附属病院)



ICHO
(Information and Communication Hub in Osaka University)
大阪大学教職員向けグループウェアの名称です。教職員間の情報伝達の要となるようにと命名しました。(情報推進部情報企画課)



歯学部附属病院のエレベーター扉
1～4階のすべての扉に銀杏のデザインがあしらわれています。



いちょう日本語プログラム
本学の外国人の研究者・家族向け日本語授業プログラムの名称です。(国際教育交流センター)



人間科学研究科正面玄関に掲げられていた旧校章
平成24年に改修されるまで掲げられていました。現在は、人間科学研究科長室に大切に保管されています。



総長顕彰ロゴ
先日授与式が行われた総長顕彰・奨励賞の盾には、本学クリエイティブユニットでデザインされたこのロゴが挿入されています。



楠本賞メダル
各学部・学科の優秀な卒業生に贈られます。左は平成2年度まで、右は平成3年度から現在まで使用されているデザインです。

1 | なぜ阪大といえばイチョウなのか

大阪大学のシンボルマーク

本誌7ページにも書かれているように、大阪大学のシンボルマーク（学章）は日本を代表するグラフィックデザイナーである田中一光氏の制作によるものです。図1のように、「大学、学生、市民」へと連なる親近感を表現した3つの円弧が重なり合い、イチョウマークを構成するというデザインとなっています。



【図1】3つの円弧による造形

シンボルマークの重要性

シンボルマークは、一般の人が大阪大学であることを知覚する一番重要なツールの一つです。シンボルマークが印刷されたパンフレット、ポスター、バッグ、そしてシンボルマークが配置されたウェブページは、マークが目に入った瞬間から大阪大学の一部となり、大阪大学ブランドをアピールし始めるのです。そのシンボルマークが正しく使用されていないということは、大阪大学がその見せ方をしっかり考えていないという印象を与え、引いては、そのシンボルマークが貼付されたもののそのものの印象も悪くなってしまう可能性があります。

そもそも、このシンボルマークは、「大阪大学学章及びスクールカラー規程」で定められ、その使用については「大阪大学学章使用規程」により、本学の構成員は学生を含めて広く利用が認められている（学外使用者の使用は手続きが必要）ところですが、学章使用時の具体的な注意事項を示したものではありませんでした。

そこで、クリエイティブユニットが、平成22年にシンボルマークの使用についてのデザインガイドラインを制定しました（当時の広報基盤整備本部会議で承認）。ガイドラインには形の情報だけではなく、正しい使い方、色、応用例などが記載されており、大阪大学ウェブライブラリOWL (<https://owl.osaka-u.ac.jp>) からダウンロードいただけますので、一度お目通しいただければと思います。この記事では以下、デザインガイドラインから一部抜粋して、大阪大学のシンボルマークの使用について解説してみたいと思います。

スクールカラーについて

大阪大学のスクールカラーは何色かご存じでしょうか？「青色」という答えは正解ではなく、正確にはマンセル表色系

7.5 PB3/12のスカイブルー（学章及びスクールカラー規程第3条）なのです。このマンセル表色系はデザイン分野で良く使用されているものの、対応している印刷会社がそこまで多くありません。そこでクリエイティブユニットでは、このマンセル表色系を管理しているマンセル社から色見本を取り寄せ、日本の印刷会社で一般的に使用されるカラーモデルとの整合を取りました。その結果、大阪大学のスクールカラーであるスカイブルーはDICカラーガイド第19版579D、プロセスカラー（C95/M88/Y0/K0）、RGBカラーモデル（R45/G40/B127）と定義しました。さらに大阪大学70周年の際に、田中一光事務所により、スカイブルーに加え、サポートカラーとして、アクティブイエロー（DIC#86、C0/M20/Y100/K0、R253/G208/B0）とコンテンプレートブラック（C0/M0/Y0/K100、R0/G0/B0）の2色を加えられ、合計3色が大阪大学を表す色として定義されています（図2）。ロゴと同様、色は「〇〇カラー」と呼ばれるくらいそのものを表すのに重要なものです。皆さんが学会のスライドやポスターなどを作成する際に色指定される場合は、上記色指定を必ずお願いします。

ロゴ＝シンボルマーク+ロゴタイプ

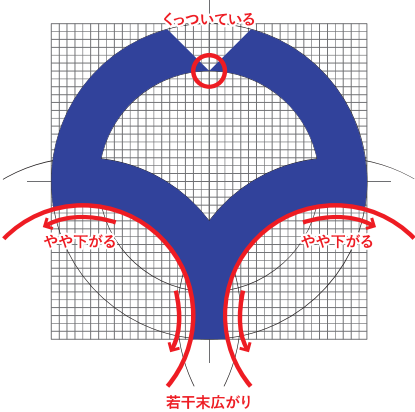
田中一光氏によって制定されたシンボルマークは俗に言うイチョウマークのみでした。その結果、ロゴタイプと呼ばれる「大阪大学」や「OSAKA UNIVERSITY」というテキストが様々なフォント、色、サイズで記載され、統一感が欠如していました。そこで、クリエイティブユニットが平成20年に新たにロゴタイプを定め、これとシンボルマークを合わせてデザインし、大阪大学のロゴとして再定義しました。皆さんが様々な場所、パターンでお使いいただけるよう、図3に示すような複数のパターンを作成しました。



【図2】大阪大学のスクールカラー



【図3】大阪大学ロゴのパターン一覧



【図4】正しいシンボルマークの見分け方



【図5】よくある間違い

正しいシンボルマーク、ロゴの見分け方

図1のように、大阪大学のシンボルマークは3つの円弧が交わるデザインです。したがって、イチョウを構成する各円弧が真円であることが絶対条件です。私たちはこれまで様々なシンボルマークをチェックしてきました。結果、図4のキャプションに示す項目だけチェックすれば正しいマークかどうか見分けられることが分かりました。

よくある間違いとして、左右に張り出したイチョウの葉の部分が真円になっていないものや、葉につながる茎の部分が円弧の一部ではないものが挙げられます。図5にその例を載せました。

皆さんもいろいろなシンボルマークを見かけた際に、それが正しいかどうか、図4の見分け方を使って判別してみてください。あなたの側にあるイチョウマーク、本当に正しいのですか？

最後に

大阪大学が大阪大学らしくあること。それは様々な要素が複雑に絡み合い、一概には達成できない事項でしょう。しかし、構成員の皆さんが、たとえば正しいロゴが配置された統一されたデザインのスライドを使う、それだけで大阪大学らしさが生まれるのです。正しいロゴを正しく使うこと、これはこの大阪大学らしさを生み出すための小さな一歩ではありますが、大きな前進でもあるのです。これらのロゴやスライドデザインなどは全てOWLからいつでもダウンロードできるようになっています。是非ともご活用いただき、大阪大学らしき確立のための一助を担っていただければ幸いです。

クリエイティブユニット 准教授 伊藤雄一

1 | なぜ阪大といえばイチョウなのか

阪大イチョウMAP

吹田
キャンパス

豊中
キャンパス

銀杏通り

「情けは人のためならず」を日常生活において世界で初めて科学的に実証

「情けを他人に施すと、それが最終的には自分に返ってくる。」それを示すことわざ「情けは人のためならず」を、科学的に実証した。こんなニュースがこの夏、新聞誌などで話題になりました。

人間科学研究科の研究グループが研究成果を科学雑誌 PLOS ONE に発表し、同時に大阪大学からプレスリリースをしました。一見実証が難しそうなこの仮説。なぜこのグループは実証することができたのでしょうか。実際に研究を行った人間科学研究科比較発達心理学研究分野の清水真由子特任研究員と大西賢治助教にお話を伺いました。

研究の概要

人間科学研究科の清水特任研究員、大西助教らの研究グループは、5〜6歳齢の幼児期の親切の交換に、「社会間接互惠性(※)」が働いていることを明らかにしました。社会間接互惠性とは、ある個体が他者に親切にする行動(利他行動)を行った結果、その個体の評価が高まり、他者に行った利他行動が別の他者から返ってくる関係性のことです。この研究結果には、ヒトの利他性の進化がどのようにして起きたのかを明らかにする学術的な意義と、制度やサービスの設計する際に、どこにポイントを置けば参加者や消費者の利他性が発揮され、維持されやすいかを考える上で重要な示唆が得られたという、社会的な意義があります。

研究では、大阪府内の保育園で1年間にわたって、5〜6歳児70人を対象にフィールドワークを実施。ある1人がおもちゃを貸すなどの親切な行動をとった際(親切児)、周囲1m以内にいた他の児1人(親切行動観察児)のその後10分間の行動を日常時と比較しました。その結果、親切行動観察児は親切児が受け手に利他行動を行ったのを見た直後に、普段よりも高い頻度で親切児に対して利他行動を行っていることを統計的に証明しました(図)。まさに「情けは人のためならず」ということわざ通りの仕組みです。

これまでの理論研究や実験場面での研究からヒトの利他行動のやり取りに社会間接互惠性が成立している可能性は指摘されてきましたが、今回の研究では、フィールドワークに特殊な観察方法を採用することで、幼児期から日常生活の中で社会間接互惠性が働いている証拠を世界で初めて示したのです。



【図】幼児における社会間接互惠性の例

※社会間接互惠性

1998年に提唱された利他行動の進化を説明するための新しい概念。従来から研究されていた「直接互惠性」は継続的なつきあいがある二個体間で直接的に利他行動の交換が行われるものであったが、そこに第三者の存在を組み込んだもの。自分が利他行動をした分のコストが相手ではなく、その行動を見ていた周りから返ってくる仕組み。この仕組みが広がるための前提として、他者評価や評判が重要となる。コンピュータシミュレーションを用いた研究で成立条件が検討され、実験によってヒトの社会でこの仕組みが働いている可能性が指摘されていた。

今回の研究成果は、プレスリリースで図を多用したり平易な説明文にするなど、専門外の方にもわかりやすい内容になっていました。このような多くの工夫がされていたことが、大きな反響があった一因だと思われます。プレスリリースしてみたいと思われたら、ぜひ一度ご所属の広報担当係にご相談ください! (広報課)

※プレスリリースをした研究成果は、本学公式ウェブページにも掲載しております。



研究を行った先生方にお話を伺いました

フィールドワークの概要を教えてください。

大阪市内の保育園を、10か月間、週に4日の割合で訪問しデータを収集しました。観察は5〜6歳児がおもちゃ等で自由に遊ぶことができる時間帯に行いました。幼児が他児に親切行動を示したら、その幼児(親切児)を10分間観察し「親切行動後場面」とし、後日親切児と「親切行動後場面」で親切行動を周りで見ていた幼児が近くにいるのを発見したら10分間同様の観察を行い「普段場面」としました。この方法で、最終的には「親切行動後場面」と「普段場面」をそれぞれ283セッションずつ収集しました。

どのような観察方法をとられたのですか?

幼児が他児とのやり取りにおいて社会間接互惠性を成立させるのかを検討するためには、親切児が第三者に親切行動を「示した状況」と「示さなかった状況」で、周りで見ていた幼児の行動を比較することが重要です。なぜなら、利他行動を受けたとしても、それが親切児の親

切行動に影響を受けているかどうかは、この両場面を比較しなければ結論付けられないからです。それによって初めて、親切児が親切行動を示した後に、周りで見ていた幼児は親切児に親切行動を示しやすいと結論付けることができます。本研究では「親切行動後場面」と比較するための「普段場面」を設定した観察を行い、社会間接互惠性の成立の有無を検討しました。



清水特任研究員

フィールドワークで苦労したことはありますか?

本研究で検討した自発的な親切行動は、5〜6歳児ではそれほど頻繁にみられる行動ではなかったため、分析に耐える量のデータを集めるのに苦労しました。そのためほぼ丸一年間保育園に通い詰めしました。苦労しましたが、子どもたちに囲まれてフィールドワークをした日々は大変ながらもとても楽しく充実したものでした。

なぜ「子ども」(5〜6歳児)で観察したのですか?

間接互惠性については、大人を対象とした実験による研究が行われており、他者に自分の選択が伝わる場合や他人の視線がある場合により利他的な選択を行いやすいということが報告されています。これは、他者による評判形成を意識している結果であり、大人の利他行動にも社会間接互惠性が影響していることを示唆する結果です。しかし、大人を対象にすると日常生活でのやり取りを実際に観察することは困難になります。また、大人の行動にはこれまでに受けてきた道徳教育や自分の所属する共同体でのルールなど複雑な要因が影響を与えています。しかし、人が先天的に利他行動を行う性質を有しているかを検討するときにはこれらの教育の影響やその他の複雑な要因はバイアスとなってしまいます。そのため、体系的な道徳教育の機会がまだ少ない幼児期が一番適しています。できるだけ低年齢の方が望ましいですが、年齢が低すぎると利他行動の頻度が低く、十分なデータを得るのが難しくなってしまうため、今回は小学校に上がる直前の5〜6歳児を対象にしました。

今回の新しい成果はどのようなものですか?

これまで、間接互惠性に関する実験や論文は数多く

発表されていますが、今回のように、研究室を飛び出して、日常生活での自然なやり取りを観察する、ということはほとんど行われてきませんでした。私がニホンザルの研究で用いていた生物学分野で一般的な観察手法を、清水さんが研究してきた保育園のフィールドに導入することで今回のデータを得ることができました。保育園の協力のもと、清水さんのお話にあるような特殊な観察方法を用いてフィールドワークを行いました。1年という長期間に渡ってのフィールドワークはとても大変でしたが、予定していた分析に耐える多くのデータを収集することができました。



大西助教

プレスリリースをしてみてもいかがでしたか?

プレスリリースの反響は大きかったです。論文掲載日の確認などに手間取りましたが、研究科の広報委員の先生にアドバイスをもらいながらスムーズに進められました。おかげで、多くのメディアに取り上げていただきました。また、新聞・テレビなどを通じて社会一般に還元したことで、さらに学术界からも多くの反応がありました。

世界トップ10の研究型総合 大学を目指す「夢と志」

22世紀に輝く

総長 平野俊夫

私の総長の任期4年の前半2年が終了いたしました。構成員の皆様方のご努力のお陰で2年間が無事経過し、それなりの実績を残すことができました。改めてお礼申し上げます。8月26日からいよいよ後半の2年が始まりましたが、引き続き、皆様方のご支援とご協力をお願いいたします。

私は常日ごろ、大学運営には、「志」と「理念」が重要であり、これを実現するための「戦略」と「戦術」がなくてはならないと考えています。またこれに加えて、「対話」と「恕の心」が重要であると思っています。過去2年間は特に対話を重視し、部局長の方々はもちろん、本部事務機構の管理職の人たち、各部署の教授を含む教員や事務職員の皆さん、さらには学生たちとも機会あるごとに対話する努力を行ってきました。この2年間に約400名の方々と対話を持つ機会がありました。今後もこの姿勢は続けていくつもりです。

その上で、これからの後半2年間は戦略を実現するための具体的な方策、すなわちどのような戦術を立てるかと言うことと、それを確実に実行していくことが重要となります。この認識を理事や構成員の皆さんと強く共有したいと思います。特に今年は具体的な戦術の策定とその速やかな実行が基本です。

大阪大学の将来の確固たる基盤を確立するため、特に次のことを皆様方をお願いいたしたく存じます。

志

創立100周年に世界トップ10の研究型総合大学になる(世界でトップクラスの大学になる)。

理念

「大学は学問と教育の府である」、もって社会の発展と福祉に貢献する。

戦略

大阪大学未来戦略(2012-2015) — 22世紀に輝く—を着実に実行する。

戦術

世界トップ10に向けた部局マネジメント及び人材育成・獲得支援策など、今後様々な具体策を実行していく。



総長、理事、監事(総長室)

今後は、未来戦略機構を中心に部局横断的な教育・研究を推進するとともに、未来を見据えた大学戦略の策定とその推進を行っていきます。

研究の更なる国際化とレベルアップは勿論のこと、教育の国際化を強力に進め、グローバルキャンパスの実現に向けて総力を挙げて取り組みます。次世代を担う若い人たちがモチベーションを高め、未来に向けて夢を持って邁進できる環境整備にこれまで以上に力を注ぎたいと思います。

大阪大学未来基金は、創立100周年に、世界トップ10に向けて、100億円の寄付を目指します。学生のみなさん、教職員の皆様方には、是非とも自らの努力で私達の大阪大学を少しでも良くするという自覚と決意をもっていただきたいと思います。10月1日に、大阪大学未来基金ワンコイン募金キャンペーンを開始しました。一人でも多くの方にこのキャンペーンに参加していただき、大阪大学構成員一人ひとりの英知と力を結集して大阪大学が22世紀にも輝き続ける基盤を築きましょう。

「22世紀に輝く大阪大学」ビジョンを、夢のままに終わらせることなく、夢の実現に向け、私も全身全霊を傾けて取り組みます。大阪大学が発展することは日本の将来は勿論のこと、人類全体の発展と福祉の向上につながるものです。皆様方の英知とご尽力により大阪大学が2031年の創立100周年、そしてその先の22世紀を見据えて、ひかり輝き続けることができるように全力投球をしていきたいと思いますので、構成員の皆様方には、引き続き、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

新理事・副学長紹介



大竹 文雄 (おおたけ ふみお)
財務戦略担当

昭和58年3月 京都大学経済学部卒業
60年3月 大阪大学大学院経済学研究科博士前期課程修了
60年7月 同 助手経済学部
63年4月 大阪府立大学経済学部講師
平成2年4月 大阪大学助教授社会経済研究所
8年3月 博士(経済学)(大阪大学)
13年5月 大阪大学教授社会経済研究所
19年4月 同 社会経済研究所長(平成21年3月まで)
22年4月 同 総長補佐(平成23年8月まで)
24年4月 同 理事補佐(平成25年8月まで)
25年7月 同 特別教授(平成28年6月まで)
25年8月 同 理事・副学長(平成27年8月まで)

専門分野 労働経済学、行動経済学

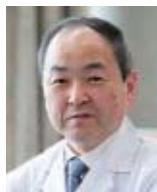


岡村 康行 (おかむら やすゆき)
国際・広報戦略、
社会学連携担当

昭和48年3月 大阪大学基礎工学部卒業
50年3月 同 大学院基礎工学研究科修士課程修了
53年3月 同 大学院基礎工学研究科博士課程修了
53年3月 工学博士(大阪大学)
53年4月 国際電信電話株式会社
56年7月 大阪大学助手基礎工学部
62年10月 同 助教授基礎工学部
平成8年4月 和歌山大学教授システム工学部
15年4月 大阪大学教授大学院基礎工学研究科
19年8月 同 評議員(平成23年8月まで)
23年8月 同 大学院基礎工学研究科長・基礎工学部長
(平成25年8月まで)
25年8月 同 理事・副学長(平成27年8月まで)

専門分野 光エレクトロニクス

新副学長紹介



吉川 秀樹 (よしかわ ひでき)
病院運営担当

昭和54年3月 大阪大学医学部卒業
58年3月 同 大学院医学研究科博士課程修了
医学博士(大阪大学)
58年4月 大阪大学医学部研究生
59年5月 同 医学部附属病院医員
59年9月 米国 Kansas 大学病理学教室研究員
60年9月 大阪大学医学部研究生
61年1月 同 助手医学部
平成5年7月 同 講師医学部
7年4月 大阪府立成人病センター整形外科部長
10年9月 大阪大学講師医学部
11年11月 同 教授大学院医学系研究科
21年2月 同 医学部附属病院副病院長(平成24年3月まで)
24年4月 同 総長補佐(平成25年8月まで)
同 医学部附属病院長(平成26年3月まで)
25年8月 同 副学長(平成26年3月まで)

専門分野 骨軟部腫瘍外科、骨・軟骨再生医療



池田 雅夫 (いけだ まさお)
URA (University Research
Administrator) 担当

昭和44年3月 大阪大学工学部卒業
46年3月 同 大学院工学研究科修士課程修了
48年3月 同 大学院工学研究科博士課程退学
48年4月 神戸大学助手工学部
50年6月 工学博士(大阪大学)
50年6月 神戸大学講師工学部
51年4月 同 助教授工学部
平成2年4月 同 教授工学部
7年4月 大阪大学教授工学部
14年4月 同 評議員(平成16年3月まで)
17年4月 同 大学院工学研究科副研究科長(平成22年3月まで)
22年4月 同 大型教育研究プロジェクト支援室特任教授・統括
マネージャー
25年8月 同 副学長(平成27年3月まで)

専門分野 制御工学

「未来戦略」に向けた施策 ～教員ポストの活用～

大阪大学は、物事の本質を見極め世界に羽ばたくグローバル人材を育成し、創立100周年を迎える2031年には研究型総合大学として「世界トップ10」に入ることを目指しています。このためには、グローバル大学として必要な全学的な基盤を構築するとともに、部局長の裁量の幅を広げることによってそのマネジメントの充実を図り、各部局の教育研究レベルを一層高めていく「未来戦略」を実行する必要があります。

この度、平成26年度から10年間で教員ポストの約5% (年約0.5%) 程度を各部局から大学に留保することとしました。大学に留保された教員ポストは、「未来戦略」の実行のため、財務状況の許容範囲内で、期限を付して次のように活用していくこととします。

- ① 「未来戦略」の実行のために大学全体の見地から必要な業務を行うポストに配分。
- ② 「未来戦略」の実行のために積極的なマネジメントを行う部局に対して、「部局長裁量ポスト」として配分。

理事・副学長 恵比須 繁之
理事 尾山 眞之助

経営協議会委員が「適塾」を 視察



9月10日(火)に、本学経営協議会委員が大阪市内の北浜に残る「適塾」(1838年開設・史跡・重要文化財)を視察しました。平野俊夫総長から、創設175周年を迎えた適塾から大阪大学に繋がる歴史について説明がありました。次いで、適塾記念センターの村田路人文研究科教授から、緒方洪庵の業績や適塾で行われた教育についての保存資料などの説明がありました。

国際共同研究促進プログラムを 選定

最先端の研究を展開している外国人研究者と共同研究を行い、本学の研究力を一層高めるとともに、グローバル化を促進するための事業として、「国際共同研究促進プログラム」を創設しました。

学内公募に対して27件の実施計画書の提出があり、選考委員会において、15件のプログラムを選定しました。

選定されたプログラムには、外国人研究者の旅費・謝金、教職員・学生の旅費、研究員の雇用経費など、1年度当たり最大1,500万円、最長3年間の支援を行います。

また、本学のグローバル化をより推進するため、今年度はこれら15件のプログラムに加え、本年度応募者に対して、単年度限りの支援も行うこととしました。

なお、来年度スタート予定の事業の募集も実施する予定です。

未来研究イニシアティブ・ グループ支援事業を選定

大阪大学ならではの基礎研究の推進や国家的課題解決に向けた研究にイニシアティブを発揮するための新たな研究分野の創出を目的とした、「未来研究イニシアティブ・グループ支援事業」を創設し、学内公募を行いました。

この度、提案のあった25件の事業について、審査委員会において審査を行い、11件の事業を選定しました。

これらの事業には、今後3年間にわたり、研究費(平成25年度は90万円～180万円)を支援することとしています。

※本年度の両プログラムに関する情報はICHO、マイハソダイからご確認いただけます。

※採択一覧は、22ページに掲載しております。

理事・副学長 相本 三郎

国際共同研究促進プログラム 採択一覧

研究代表者氏名	所属・職	外国人研究者所属機関（国名）
浅田 稔	未来戦略機構・教授	カリフォルニア工科大学（アメリカ）
井上 克郎	情報科学研究科・教授	ヴィクトリア大学（カナダ）
柏木 正	工学研究科・教授	ナント中央理工科大学（フランス）
栗栖 源嗣	蛋白質研究所・教授	ルール大学ボーフム（ドイツ）
兒玉 了祐	工学研究科・教授	フランス国立科学研究センターエコールポリテクニーク（フランス）
篠原 彰	蛋白質研究所・教授	フリードリヒ・ミーシャー研究所（スイス）
杉本 宜昭	工学研究科・准教授	チェコ科学アカデミー（チェコ）
芹澤 成弘	社会経済研究所・教授	インド統計大学（インド）
長峯 健太郎	理学研究科・教授	ケンタッキー大学（アメリカ）
西野 邦彦	産業科学研究科・准教授	香港大学（香港）
畑中 吉治	核物理研究センター・教授	カナダ国立素粒子原子核物理研究所（カナダ）
早川 和生	医学系研究科保健学専攻/ 附属ツインリサーチセンター・教授	ヘルシンキ大学（フィンランド）
藤田 一郎	生命機能研究科・教授	ユーリッヒ総合研究機構／アーヘン工科大学（ドイツ）
真島 和志	基礎工学研究科・教授	スイス連邦工科大学チューリッヒ校（スイス）
村上 秀明	歯学研究科・准教授	コペンハーゲン大学（デンマーク）

未来研究イニシアティブ・グループ支援事業 採択一覧

氏 名	所属・職	グループ名
芦田 昌明	基礎工学研究科・教授	20オクターブ分光による多階層物質ダイナミクス研究拠点
井元 信之	基礎工学研究科・教授	量子インターフェース研究企画グループ
大屋 幸輔	金融・保険教育研究センター・ センター長	リスク解析・資本市場研究グループ
茅田 博一	基礎工学研究科・教授	分子技術イニシアティブ
田中 仁	法学研究科・教授	21世紀課題群と中国
豊田 岐聡	理学研究科附属基礎理学プロジェ クト研究センター・副センター長	MULTUMで切り拓くオンサイトマクスベクトロメトリー
深瀬 浩一	理学研究科・教授	インテリジェント生体制御分子の創製と新規医薬、医療診断への展開
藤原 康文	工学研究科・教授	グリーンナノマテリアル“ものづくり”イニシアティブ
三宅 淳	基礎工学研究科・教授	メコン川流域ベトナム南部における地域適型の包括的な環境 再生ソリューションモデルの形成（発展途上国の環境問題を総合 的に支援するための技術統合グループの形成を目指して）
吉田 博	基礎工学研究科・教授	計算機ナノマテリアルデザイン新元素戦略
吉田 陽一	産業科学研究科附属産業科学 ナノテクノロジーセンター・センター長	大阪大学ナノサイエンス・ナノテクノロジーアライアンス

七大戦、終宴

9 か月間の熱き戦い、お疲れさまでした

今大会は本学を主管校として、昨年 12 月のアイスホッケーを皮切りに約 9 ヶ月間に渡り全31種目で熱戦が繰り広げられました。本学は、硬式テニス（女子）、空手道（女子）、準硬式野球、体操、アーチェリー、自動車の 6 種目で優勝しました。平野俊夫総長は閉会式の挨拶で、各大学の選手の健闘を称えるとともに、大会運営に携わった実行委員会の学生の労をねぎらいました。

来年の主管校は京都大学です。京都の地で素晴らしい大会となることを期待しています。

※その他の大会競技写真は「全国七大学総合体育大会 HP 第 52 回大会 競技風景アルバム」（<http://www.7-univ.jp/>）をご覧ください。

第52回七大戦 総合順位		
優 勝	東 北 大 学	216pt
準優勝	京 都 大 学	213.5pt
3 位	大 阪 大 学	199.5pt
4 位	東 京 大 学	189pt
5 位	九 州 大 学	181pt
6 位	名古屋大学	166pt
7 位	北海道大学	164pt

大阪大学 URA シンポジウムを開催



安西理事長の基調講演

8 月 28 日（水）、大阪大学 URA シンポジウム「変革の時代に直面する大学と URA の役割」を、銀杏会館で開催しました。

基調講演では、日本学術振興会の安西祐一郎理事長が、日本版 URA (University Research Administrator) の位置付けや役割、目標等の検討課題を提示しました。また、学外の事例として理化学研究所の古屋輝夫理事から、同研究所の事務職員を中心に進行中の理研型リサーチ・アドミニストレーターに関する取り組みの紹介がありました。

パネルディスカッションでは、URA に求められる専門性や心構え、URA と教職員との役割分担・関係性などについて、議論を行い、URA の今後について考えを深める場となりました。

適塾創設 175 周年・緒方洪庵没後 150 年記念
シンポジウムを開催

8 月 3 日（土）、大阪大学シンポジウム「医の知の未来へ」（読売新聞社後援）を、うめきた・グランフロント大阪・コングレコンベンションセンターで開催しました。

第1部では、西田幸二医学系研究科教授、川崎和男工学研究科特任教授、作家・久坂部羊氏が、「いのち」や「医療」について専門の立場からそれぞれ講演しました。

第2部は、読売放送の脇浜紀子アナウンサーの総合司会により講演者 3 人の座談会が行われ、日本人の“いのち”の未来について考える場となりました。



西田教授、川崎特任教授、久坂部氏（左から）



「並木道」
(吹田キャンパス・生命科学図書館前／11月中旬頃)

OWL { カテゴリ：阪大の自然
キーワード：紅葉／秋／吹田キャンパス／イチョウ／歩道

OWL (Osaka University Web Library) とは…
大阪大学の学内構成員(学生・教職員)が、大阪大学のさまざまな素材を自由にダウンロードし、利用するためのウェブサイトです。最適化された高画質な画像、各種資料やプレゼンに利用できるテンプレートを利用規約を満たす限り自由に利用できます。「阪大百景」は、クリエイティブユニットがクリエイティブ・コモンズライセンスで提供する画像ライブラリで、カテゴリおよびキーワードから写真を選択できます。OWLには「マイハンドイ」からログインのうえご利用ください。https://my.osaka-u.ac.jp

教職員インタビュー



研究もオーボエも、 事前のイメージトレーニングが重要

宮崎浩 (みやざき ひろし)
基礎工学研究科 機能創成専攻生体工学領域 准教授

2010年10月号から3年間連載してきた教職員インタビュー。今後も様々な特技や経歴をもつ方々を紹介していきます。今回は、基礎工学研究科でバイオメカニクスをテーマに研究し、オーボエ演奏者としても活躍する宮崎浩准教授にお話を伺いました。

オーボエとの出会い

初めてオーボエを演奏したのは大学時代のオーケストラサークル。今使っているものは、その時から20年以上愛用しています。子供のころにモーツァルトのオーボエ協奏曲を聴いてからずっと演奏したかったのですが、中学高校時代の吹奏楽部にはオーボエパートがありませんでした。現在は、大阪府医師会フィルハーモニーに所属し、月2回の練習と年1回の定期演奏会、また、病院を訪問してのボランティアコンサートに参加しています。オーケストラでは、それぞれの楽器の音が調和して全体が1つになるときがあります。そのように演奏が「ハマった」瞬間の響きを全身で感じられるのは、オーケストラの醍醐味ですね。何かと忙しくて練習はほとんどできませんが、一度その感覚を味わったらまた次もやりたくなります。仕事と趣味、ともに無理せずバランスよく続けていくのが大事ですね。

また、オーボエは、オーケストラの中で唯一チューニングができない楽器です。演奏会でオーボエを基準にオーケストラのピッチを決めるのは、そのような理由があるからです。奏者は楽器の音程と音色のクセを修正するのに苦労しますが、自分で工夫しながら自分の音を作っていく面白みも感じています。



リードはすぐ消耗してしまうため、10本以上常備している。製作には1年以上かかるという。



大阪府医師会フィルハーモニーの定期演奏会の様子。
年1回開催されている。

オーボエはどんな楽器？

オーボエは、一時期ギネスブックに載っていたほど、演奏が難しい木管楽器として知られています。まず、なかなか音が出せません。良い音を鳴らすにはとても高い圧力の息が必要で、体力を要します。また、息を吹き込む「リード」を自分のものにするのが難しいです。人によって合う合わないや音色の好みがあるので、多くの奏者が自分自身で自分に合ったリードを作ります。

研究とオーボエ

私は、力が生き物の体にどう影響するか、細胞が力に対してどのように反応するか、ということをテーマに研究しています。以前に、自分自身が被験者となって、オーボエの演奏で呼吸器系にどのような負荷がかかるのかなどの実験結果を学会で発表したこともあります。

研究と趣味のどちらでも大事にしているのは、事前のイメージトレーニングです。研究では、事前にどのような手順で実験を行い、どんな結果が予想できるか、イメージを持つことが成功率を上げるために重要です。

オーケストラでは、月に2回しか練習がありませんので、通勤中などに譜読みや運指の確認を行い、吹き方をイメージしておく、合同練習での合わせはかなり楽になります。

楽器を始めるのは、ハードルが高いとよく言われますが、まずはやってみてください。特に管楽器は、循環系・心肺機能の向上にも効果的です。私自身も、オーボエを続けていることで心身の健康を維持しています。

キャンパスをクリーンに

エコ・レンジャー

キャンパス内の道路や駐輪スペースがいつもきれいに保たれていることに、みなさんはお気づきでしょうか？

通称「エコ・レンジャー」と呼ばれる多様な人材活用推進支援室の職員が、阪大のみなさんが気持ちよく過ごせるようにキャンパスの清掃活動や自転車駐輪整理などに汗を流しています。平成20年6月に発足してから今年で6年目になるエコ・レンジャーの普段の業務について、各キャンパスのリーダーにお話を伺いました。

吹田地区

3キャンパスの中では最も規模が大きく、リーダー 8名、スタッフ24名で構成されています。主要幹線道路やその周辺の清掃などでの落ち葉の集積、雑草除去など屋外清掃は、すでにおなじみの方も多いのではないのでしょうか。他にも、大阪大学本部棟内の会議室、談話室、コンベンションセンター、国際交流会館吹田分館などの室内清掃も行っています。最近は草刈りや剪定などの園芸関係の業務や、配布資料の封入作業などにも業務の幅を広げています。

平成20年6月の発足当時からリーダーを務めている佐野忠史さんは、次のように話してくださいました。

「就任当時は障害のある人との仕事は初めてで、何もかもが一から勉強の毎日でしたが、変に予備知識がなかったことで、先入観なくこの仕事に向き合うことができました。スタッフと接するとき心がけていることは、『仕事への真摯な姿勢』をメンバーに伝えること。エコ・レンジャーの仕事がボランティアではなく、お金をもらって働いているという意識をもってもらいたからです。阪大での任期が終わったあとも、彼らが阪大で働いていた経験を次の職場で評価されるように、そのことを彼らが誇れるようになればと思っています。だから、時に厳しい言葉も飛びます(笑)。発足から5年が経ち、学内でエコ・レンジャーも広く知られるようになりました。作業姿を見かけて声をかけてくださる方が増えたことを、嬉しく思っています。」



ラベンダーの手入れ



佐野忠史さん



国際交流会館ベッドメイク



道路清掃



側溝の清掃

吹田メンバー

「エコ・レンジャー」は、「障害者の雇用の促進等に関する法律」に基づいて、本学が積極的に知的障害者・身体障害者の雇用に取り組むことを目的に始まったものです。当初、吹田キャンパスにおいて20名(リーダー6名、スタッフ14名)で始まったこの取組は、平成22年度には、3キャンパスすべてに広がり、今年9月で67名(リーダー16名、スタッフ51名)にまで拡大しました。知的障害者雇用の先駆的な事例として、他の大学などから見学に訪れています。

「リーダー」は、スタッフが安全かつ円滑に業務を遂行するために、スタッフ約3名につき1名配置される支援員(事務補佐員)です。スタッフの業務分担作成から、個々の性格などにも配慮した細やかなサポートまで担っています。

豊中地区

リーダー 4名、スタッフ15名(うち3名は身体障害者)の体制で、幹線道路を中心とした屋外清掃のほか、全学教育推進機構前や、基礎工学研究科、理学研究科周辺の自転車駐輪整理を行っています。

昨年4月からリーダーをしている真盛(じつもり)朱里さんは、次のように話します。

「スタッフとのコミュニケーションでみんなに誤解のない言葉を選ぶようにしています。例えば、後ろを向いてほしい時によく『振り返って』と言いますが、必ずしもスタッフ全員が理解できる言葉ではありません。『後ろを向いて』と言えば、解釈の違いが発生しにくくなります。スタッフは、業務中に「ありがとう」「おつかれさま」と声をかけてもらえると、喜んだり、さらにやる気になったりします。学内の方々の間で、「清掃をする阪大職員」という認識がもっと広がると嬉しいですね。また、みんな素直で仕事熱心で、業務の幅もどんどん広がっており、オープンキャンパス用の配布資料のセットといったこともさせていただいています。何かまかせていただけることがあれば、ぜひご相談をお待ちしています。」



豊中メンバー



道路清掃



真盛朱里さん



自転車整理

箕面地区

屋内清掃をメイン業務として、リーダー 4名、スタッフ12名が活動しています。今年4月には、5名(リーダー1名、スタッフ4名)が増員され、業務に屋外清掃が追加されました。

箕面地区では、阪大への採用前から障害者の支援にかかわることがあったという、片山勝重さん、大川淳子さんの2人のリーダーにお話を伺いました。

「リーダーやスタッフと会話する時間をできるだけ多く持っています。例えば、猛暑の時期にはスタッフが熱中症で倒れるリスクもあります。スタッフは、体調が悪くてもなかなか自分からしんどいことを言い出せないことが多く、リーダーがすぐスタッフの急変に気づけるように普段から気を配るようにしています。それぞれに個性豊かなスタッフ達を、ぜひ温かい目で見守ってください。」



箕面メンバー



トイレ清掃



片山勝重さん



屋内外の清掃



大川淳子さん

【エコ・レンジャーに関する問い合わせ先】

総務企画部多様な人材活用推進支援室 吹田事務室(本部南棟2階南側)
TEL: 06-6879-4069 Email: soumu-tayou@office.osaka-u.ac.jp

第11回全日本学生フォーミュラ大会で、大阪大学チーム OFRAC が総合2位

9月3日～7日まで、静岡県のエコパ（小笠山総合運動公園）で開催された第11回全日本学生フォーミュラ大会で、大阪大学チーム（OFRAC 学生24人で構成）は、総合成績で僅差の2位（78チーム中）となり、国土交通大臣賞や特別賞なども受賞しました。この大会は、学生が自ら構想・設計・製作した小型レーシングカーにより、ものづくりの総合力を競い、産学官民で支援して、自動車技術ならびに産業の発展・振興に資する人材を育成するために毎年開催されているものです。参加した学生からは、「僅かの差で優勝を逃したのは、悔しいですが、来年の総合1位に向け動き始めています」と力強い言葉が聞かれました。（詳細記事は本学公式ウェブページに掲載しています）



大阪大学チーム OFRAC のメンバー



デザイン（設計）審査で1位となった本学のフォーミュラカー

受賞等



菊地和也 教授（工学研究科）
第31回（平成25年度）大阪科学賞
「化学プローブのデザイン・合成による分子イメージング」

第11回産学官連携功労者表彰 日本学術会議会長賞

工学研究科	佐々木孝友 名誉教授 森勇介 教授
-------	----------------------

文学研究科	湯淺邦弘 教授	2013年度中文デジタルブリッシング・デジタルアーカイブ国際学会 優秀学術論文賞
	金城未来 助教	2013年度中文デジタルブリッシング・デジタルアーカイブ国際学会 優秀学術論文賞
	市大樹 准教授	第26回浜田青陵賞
理学研究科	橋爪章仁 准教授	高分子学会 Wiley 賞
医学系研究科	小田原厚子 准教授	平成24年度特別研究員等審査会専門委員の表彰（日本学術振興会）
	堀正二 名誉教授	国際心臓研究学会（ISHR）The Peter Harris Distinguished Scientist Award 2013
	片上直人 寄附講座助教	平成25年度日本糖尿病学会賞（リウ賞）
医学部附属病院	竹尾映美 臨床検査技師	平成25年度日本検査血液学会 学術賞
薬学研究科	井上了 医療安全係主任	第2回「分析機器・科学機器遺産」認定（認定品：田中式顕微鏡、井上主任が発見）
	赤井周司 教授	平成24年度特別研究員等審査会専門委員の表彰（日本学術振興会）
	内藤林 名誉教授	第6回海洋立国推進功労者表彰
基礎工学研究科	大城理 教授	日本コンピュータ外科学会 2012年度講演論文賞
基礎工学研究科	山地健太さん（M2）	第33回有機合成若手セミナー ポスター賞
	大城理 教授	
	井村誠幸 准教授	画像の認識・理解シンポジウム MIRU2013 インタラクティブ発表賞
基礎工学研究科	黒田嘉宏 助教	
	浦西友樹 助教	
臨床医工学融合研究教育センター	網代広治 特任准教授（常勤）	第59回高分子研究発表会 ヤングサイエンティスト講演賞
グローバルコラボレーションセンター	吉富志津代 特任准教授（常勤）	文化庁長官表彰（文化発信部門）

—— 第2回大阪大学総長顕彰・総長奨励賞 ——

総長顕彰は、大阪大学に勤務する教員のうち、教育、研究、社会・国際貢献又は管理運営上の業績が特に顕著であると認められた者を顕彰し、大学の一層の発展を期することを目的として行っています。

また、総長奨励賞は、若手教員（概ね40歳以下の者）のうち、教育又は研究の業績があると認められるなど、同分野で将来活躍することが期待される者を顕彰し、奨励することを目的として行っています。

8月2日（金）、コンベンションセンターMOホールで表彰式を開催しました。



【総長顕彰】

教育部門（4名）	
理学研究科	深瀬浩一 教授
医学系研究科	松浦成昭 教授

研究部門（150名）	
経済学研究科	小林敏男 教授 関口倫紀 教授
人間科学研究科	森田敦郎 准教授
理学研究科	上田昌宏 教授 岸本忠史 教授 久野良孝 教授 小林研介 教授 今野一宏 教授 篠原厚 教授 芝井広 教授 常深博 教授 野末泰夫 教授 原田明 教授 松野健治 教授 水谷泰久 教授 村田道雄 教授 青木正治 准教授 住貴宏 准教授 藤本ゆかり 准教授 森田靖 准教授

医学系研究科	上田啓次 教授 大園恵一 教授 片山一朗 教授 金井好克 教授 金田安史 教授 菊池章 教授 木村正 教授 熊ノ郷淳 教授 倉智嘉久 教授 澤芳樹 教授 祖父江友孝 教授 竹田潔 教授 竹田潤二 教授 武田雅俊 教授 竹原徹郎 教授 玉井克人 寄附講座教授 藤堂剛 教授 畑澤順 教授 不二門尚 教授 森正樹 教授 山下俊英 教授 吉峰俊樹 教授 平田雅之 特任准教授（常勤） 金田眞理 講師
--------	---

工学研究科	辻川和丈 教授 堤康史 教授 中川晋作 教授 水口裕之 教授 近藤昌夫 准教授 明石満 教授 浅田稔 教授 栗津邦男 教授 池道彦 教授 井上豪 教授 生越専介 教授 尾崎雅則 教授 笠井秀明 教授 加藤直三 教授 河田聡 教授 菊地和也 教授 紀ノ岡正博 教授 桑原裕司 教授 兒玉了祐 教授 三瓶政一 教授 高谷裕浩 教授 茶谷直人 教授 戸田保幸 教授 中野貴由 教授 馬場口登 教授 福住俊一 教授 藤原康文 教授 三浦雅博 教授 安武潔 教授 山内和人 教授 山口彰 教授 山中伸介 教授 牛尾知雄 准教授 小浦久子 准教授 長井志江 特任准教授（常勤） 萩原幸司 准教授 馬場健史 准教授 藤田克昌 准教授 細貝知直 特任准教授（常勤） 國本博明 教授 北岡良雄 教授 北川勝浩 教授 木村剛 教授 實川浩一郎 教授 鈴木義茂 教授 福井賢一 教授 真島和志 教授
-------	--

歯学研究科	河合伸治 特任准教授（常勤）
歯学部附属病院	権田知也 講師
薬学研究科	小比賀聡 教授

工学研究科	松村暢彦 准教授
基礎工学研究科	荒木勉 教授

薬学研究科	辻川和丈 教授 堤康史 教授 中川晋作 教授 水口裕之 教授 近藤昌夫 准教授
工学研究科	明石満 教授 浅田稔 教授 栗津邦男 教授 池道彦 教授 井上豪 教授 生越専介 教授 尾崎雅則 教授 笠井秀明 教授 加藤直三 教授 河田聡 教授 菊地和也 教授 紀ノ岡正博 教授 桑原裕司 教授 兒玉了祐 教授 三瓶政一 教授 高谷裕浩 教授 茶谷直人 教授 戸田保幸 教授 中野貴由 教授 馬場口登 教授 福住俊一 教授 藤原康文 教授 三浦雅博 教授 安武潔 教授 山内和人 教授 山口彰 教授 山中伸介 教授 牛尾知雄 准教授 小浦久子 准教授 長井志江 特任准教授（常勤） 萩原幸司 准教授 馬場健史 准教授 藤田克昌 准教授 細貝知直 特任准教授（常勤）
基礎工学研究科	國本博明 教授 北岡良雄 教授 北川勝浩 教授 木村剛 教授 實川浩一郎 教授 鈴木義茂 教授 福井賢一 教授 真島和志 教授

基礎工学研究科	和田成生 教授 荻博次 准教授 長澤裕 准教授
言語文化研究科	林良彦 教授 齋藤渉 准教授
生命機能研究科	高島成二 教授 石井優 教授 近藤滋 教授 月田早智子 教授 仲野徹 教授 濱田博司 教授 平岡泰 教授 八木健 教授 吉森保 教授 清水浩 教授
情報科学研究科	東野師夫 教授 日比孝之 教授 藤崎泰正 教授 前田太郎 教授 村田正幸 教授
微生物病研究所	伊川正人 教授 高倉伸幸 教授 藤永由佳子 特任教授(常勤) 堀井俊宏 教授 松浦善治 教授 岡部勝 特任研究員(常勤)
産業科学研究所	小林光 教授 菅沼克昭 教授

社会・国際貢献部門(6名)	
法学研究科	高田篤 教授
人間科学研究科	渥美公秀 教授
工学研究科	柏木正 教授
管理運営部門(2名)	
基礎工学研究科	田谷正仁 教授

産業科学研究所	竹田精治 教授 谷村克己 教授 永井健治 教授 中谷和彦 教授 松本和彦 教授 八木康史 教授 山口明人 特任教授(常勤) 西野邦彦 准教授 能木雅也 准教授 向川康博 准教授 柳田剛 准教授
蛋白質研究所	栗栖源嗣 教授 篠原彰 教授 関口清俊 教授 高木淳一 教授 中村春木 教授 藤原敏道 教授 古川貴久 教授 小野善康 教授
社会経済研究所	近藤勝義 教授
接合科学研究所	阿部浩也 准教授 塚本雅裕 准教授 保田英洋 教授 大島義文 特任准教授(常勤)
超高圧電子顕微鏡センター	野海博之 教授
核物理研究センター	中井光男 教授
レーザーエネルギー学研究センター	荒瀬尚 教授
免疫学フロンティア研究センター	黒崎知博 特任教授(常勤)

工学研究科	北山研一 教授
国際教育交流センター	有川友子 教授
核物理研究センター	能町正治 教授

情報推進機構	江原康生 講師
--------	---------

【総長奨励賞】

教育部門(6名)	
法学研究科	長田真里 教授
人間科学研究科	堀場圭信 准教授
工学研究科	吉村政志 准教授

研究部門(167名)	
文学研究科	輪島裕介 准教授 SPECHT THERESA 特任講師(常勤)
経済学研究科	西村幸浩 准教授 松村真宏 准教授 中澤渉 准教授 乾賢 助教 中井宏 助教
人間科学研究科	橋本幸士 教授 落合理 准教授 高橋寛史 准教授 深澤正彰 准教授 松岡茂 特任准教授(常勤) 安田正大 准教授 安田健彦 准教授 原利明 特任講師(常勤)
理学研究科	北河康隆 助教 中嶋大 助教 藪田ひかる 助教 山田剛司 助教
医学系研究科	梅本英司 准教授 馬場耕一 寄附講座准教授

医学系研究科	藤原祐一郎 准教授 伊東範尚 助教 大河内善史 助教 佐藤朗 助教 筒井秀和 助教 富田興一 助教 中村伴行 助教 西村潤一 助教 二村圭祐 助教 沼崎徳高 助教 野島聡 助教 疋田隼人 寄附講座助教 古谷和春 助教 村松里衣子 助教 吉村信一郎 助教 寺尾美香 特任研究員(常勤)
医学部附属病院	平将生 助教
歯学研究科	山口哲 講師 江草宏 助教 関根伸一 助教 竹立匡秀 助教 前田和彦 助教

歯学研究科	和田誠大 助教 伊藤祥作 講師
歯学部附属病院	野村良太 講師 大川玲奈 助教 野原幹司 助教 櫻井文教 准教授 張功幸 准教授 吉岡靖雄 准教授 立花雅史 助教 村井健一 助教 一條知昭 特任研究員(常勤)
薬学研究科	有馬健太 准教授 小野田晃 准教授 黒崎健 准教授 阪口啓 准教授 杉本宜昭 准教授 杉山峰崇 准教授 高橋幸生 准教授 土井祐介 准教授 齋巢守 准教授 中西英之 准教授 林照剛 准教授 東森充 准教授 平原佳織 准教授 帆足英二 准教授 本田孝祐 准教授 水上進 准教授 森浩亮 准教授 寺井智之 講師 雨夜徹 助教 上松太郎 助教 奥野弘嗣 助教 亀川孝 助教 小泉圭吾 助教 佐伯昭紀 助教 多田隈建二郎 助教 柳楽知也 助教 久木一朗 助教 藤枝伸宇 助教 細井卓治 助教 堀雄一郎 助教 松崎典弥 助教 道崎正岐 助教 桃井良尚 助教 森裕紀 助教 吉田浩之 助教 君塚肇 准教授 境慎司 准教授 重田育照 准教授 永井正也 准教授 中村芳明 准教授 土方嘉徳 准教授 富士田誠之 准教授 堀川敏太郎 准教授 水落憲和 准教授 山田亮 准教授 吉川雄一郎 准教授 平井宏明 講師 小嶋勝 助教 新聞宏彦 助教 橋本智昭 助教 袁輪陽介 助教 八島光晴 助教
工学研究科	
基礎工学研究科	

言語文化研究科	原真由子 准教授 秋田喜美 講師 西田理恵子 講師
生命機能研究科	中野珠実 准教授 山崎裕自 准教授 内村有邦 特任助教(常勤) 加藤貴之 助教 高岡勝吉 助教 竹本龍也 助教 成田央 助教
情報科学研究科	小倉裕介 准教授 清水正宏 准教授 竹中要一 准教授 寺前順之介 准教授 橋本昌宜 准教授 原隆浩 准教授 肥後芳樹 助教 廣森聡仁 助教 堀崎遼一 助教 吉田真紀 助教
微生物病研究所	山本雅裕 教授 山縣一夫 特任准教授(常勤) 船戸洋佑 助教
産業科学研究所	家裕隆 准教授 河原吉伸 准教授 多根正和 准教授 筒井真楠 准教授 堂野主税 准教授 立川貴士 助教 長島一樹 特任助教(常勤) 福井健一 助教 植原靖 助教 山本洋揮 助教
蛋白質研究所	佐藤毅 助教 田中秀明 助教
社会経済研究所	石田潤一郎 教授 松島法明 教授 山田克宣 講師
接合科学研究所	堤成一郎 准教授 梅田純子 助教
核物理研究センター	梅原さおり 特任助教(常勤)
サイバーメディアセンター	清川清 准教授 竹蓋順子 准教授 長谷川剛 准教授
レーザーエネルギー学研究センター	藤岡慎介 准教授 有川安信 講師
免疫学フロンティア研究センター	伊勢渉 特任准教授(常勤) 磯谷綾子 特任准教授(常勤) 鈴木一博 特任准教授(常勤) SMITH NICHOLAS ISAAC 特任准教授(常勤) 華山力成 特任准教授(常勤) 馬場義裕 特任准教授(常勤) 邊見弘明 寄附研究部門准教授 熊谷雄太郎 特任助教(常勤) 西川恵三 特任助教(常勤)
未来戦略機構	中野賢 特任准教授(常勤)
全学教育推進機構	小島理永 助教
産学連携本部	市田秀樹 助教
クリエイティブユニット	伊藤雄一 准教授
安全衛生管理部	富田賢吾 准教授
大型教育研究プロジェクト支援室	平井啓 准教授

※受賞者の並びは部局別、職名、五十音順
※所属及び職名は、平成25年8月1日現在のもの

人事

— 理事・副学長 —

平成 25 年 8 月 26 日
大竹文雄 (財務戦略担当)
岡村康行 (国際・広報戦略、社会学連携担当)

— 理事 —

平成 25 年 8 月 26 日
尾山眞之助 (人事労務戦略、多様な人材活用、事務改革担当)

— 副学長 —

平成 25 年 8 月 26 日
阿部順三 (海外拠点担当、経済学研究科教授)
江口太郎 (地域交流担当、広報・社会学連携オフィス特任教授 (常勤))
吉川秀樹 (病院運営担当、医学部附属病院長)
池田雅夫 (URA 担当、大型教育研究プロジェクト支援室特任教授 (常勤))

— 新教授 —

平成 25 年 7 月 16 日	與曾井優	【所 属】核物理研究センター 核物理実験研究部門 【最終学歴】S58.3 京都大学大学院理学研究科修士課程 (物理学第二専攻) 修了	【前職】本学准教授
平成 25 年 8 月 1 日	福地一樹	【所 属】医学系研究科 保健学専攻 医用物理学講座 【最終学歴】H8.3 大阪大学大学院医学研究科内科系核医学専攻博士課程修了	【前職】静岡県立総合病院
平成 25 年 9 月 1 日	中村博昭	【所 属】理学研究科 数学専攻 代数学講座 【最終学歴】H 元.3 東京大学大学院理学系研究科修士課程数学専攻修了	【前職】岡山大学
	安田弘行	【所 属】工学研究科 マテリアル生産科学専攻 構造機能制御学講座 【最終学歴】H8.3 大阪大学大学院工学研究科材料物性工学専攻博士課程修了	【前職】本学准教授
	佐藤真	【所 属】大阪大学・金沢大学・浜松医科大学・千葉大学・福井大学 連合小児発達学研究科 こころの発達神経科学講座 【最終学歴】H3.3 大阪大学大学院医学研究科生理学専攻博士課程修了	【前職】福井大学
平成 25 年 10 月 1 日	藤田清士	【所 属】工学研究科 国際交流推進センター 【最終学歴】H6.3 神戸大学大学院自然科学研究科環境科学専攻博士課程修了	【前職】佐賀大学
	山田克彦	【所 属】工学研究科 機械工学専攻 知能機械学講座 【最終学歴】S55.3 東京大学大学院工学系研究科修士課程産業機械工学専門課程修了	【前職】名古屋大学
	北條裕信	【所 属】蛋白質研究所 蛋白質化学研究部門 【最終学歴】S62.3 大阪大学大学院理学研究科有機化学専攻博士前期課程修了	【前職】東海大学
	川嶋太津夫	【所 属】未来戦略機構 戦略企画室 【最終学歴】S56.3 名古屋大学大学院教育学研究科博士前期課程修了	【前職】神戸大学

訃報

法学部	松岡博 名誉教授	平成 25 年 7 月 25 日 逝去
工学部	三川禮 名誉教授	平成 25 年 8 月 15 日 逝去
薬学部	三浦喜温 名誉教授	平成 25 年 8 月 21 日 逝去



松岡博 名誉教授
(元副学長)

学生部長、法学部長などを歴任後、1994 年 6 月副学長に就任。平成 14 年に定年退官。平成 16 年の国立大学法人化時には、経営協議会委員、総長選考会議議長を務められるなど、長年にわたり大阪大学の管理運営や教育研究面で多大な尽力をされました。また、平成 10 年には大阪大学出版会会長も務められました。

享年 74 歳。謹んでご冥福をお祈りいたします。



Information 詳細は、本学公式ウェブページ (www.osaka-u.ac.jp) 「イベント情報」および「セミナー・シンポジウム情報」などをご覧ください。

大阪大学総合学術博物館第6回特別展 適塾創設 175 周年記念・緒方洪庵没後 150 年記念

緒方洪庵・適塾と近世大坂の学知



本年は、江戸時代後期に大坂で活躍した医師・蘭学者である緒方洪庵 (1810–1863) の没後 150 年、適塾創設から 175 年の節目の年です。それを記念し、本展覧会では、洪庵と適塾に関する重要資料はもちろん、これを育んだ個性に富む近世大坂地域のひとと学問にもスポットを当てます。

会 期：10 月 29 日 (火) ～ 12 月 27 日 (金)

開館時間：10 時 30 分～ 17 時 入館料：無料

※日曜・祝日は休館 ただし 11 月 3 日 (日・祝)・4 日 (月・振休) は開館

会 場：大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館

展示構成

(I) 緒方洪庵の学問形成 師、中天游と坪井信道／洪庵の学問的業績

(II) 近世大坂の学知と適塾

近世大坂に花開いたさまざまな人と学問／当代随一、大坂の医学塾—適塾と合水堂

(III) 西洋医学の導入と蘭画 西洋医学と蘭画—ヒポクラテス賛美の流行

問合せ先：総合学術博物館

Tel：06-6850-6714 Fax：06-6850-6720

URL：http://www.museum.osaka-u.ac.jp/



特別展に関連して、以下のイベントも開催されます

ミュージアム・レクチャー

会場：待兼山修学館 3 階セミナー室

【第 59 回】11 月 2 日 (土) 14:00 ～ 15:30

「蘭学と洋風画—石川大浪をめぐる—」

勝盛 典子 (神戸市立博物館学芸員)

【第 60 回】12 月 7 日 (土) 14:00 ～ 15:30

「ロシア使節プチャーチンの来航と大坂・下田」

西澤 美穂子 (専修大学・鶴見大学非常勤講師)

※いずれも定員 60 名、当日先着順

(聴講無料、30 分前より開場)

適塾創設 175 周年記念・緒方洪庵没後 150 年記念 平成 25 年度大阪大学適塾記念講演会

「大坂洋学事始—その萌芽と成熟—」

日時：12 月 14 日 (土) 14:00 ～ 16:00

講演：

「大坂・京都のキリシタン—キリスト教受容と知的交流—」

岡 美穂子 (東京大学史料編纂所・助教)

「『緒方洪庵の薬箱』由来生薬の本草学的意義と東西融合医療」

高橋 京子 (総合学術博物館・准教授)

会場：大阪大学会館講堂

主催：大阪大学適塾記念センター、適塾記念会

～適塾休館のお知らせ～

大阪市北浜にある適塾 (史跡・重要文化財) は、耐震改修工事のため、以下の期間、休館とさせていただきます。長期間、参観いただけずご不便、ご迷惑をおかけいたしますが、ご理解とご協力をお願いいたします。なお、休館中は、適塾で展示している資料の一部を大阪大学中之島センターに移し、無料で公開いたします。



適塾 (史跡・重要文化財)



中之島センター

適塾の休館期間

平成 25 年 10 月 7 日 (月) ～ 平成 26 年 3 月 31 日 (月) (予定)

適塾と緒方洪庵—適塾臨時展示—

期 間 平成 25 年 10 月 17 日 (木) ～

平成 26 年 3 月 16 日 (日) (予定)

開館時間 9:30 ～ 17:00

年末年始 (12 月 29 日～ 1 月 3 日) 休館

場 所 大阪大学中之島センター 2 階

大阪大学未来トーク 後期

様々な分野で活躍中の著名な方に、各界の最先端の情勢を学内外の方を対象に講演していただく「大阪大学未来トーク」。好評だった前期に引き続き、10月28日から後期(第5回～第8回)の日程がスタートします。本学構成員の方はもちろん、学外の皆様にもご参加いただけます。
※先着順。事前申込は不要(参加費無料)です。
※講演者のプロフィールは、本学公式ウェブページをご覧ください。



講演者・日程



第5回 10月28日(月) 17:00～18:30
(受付開始16:30から)
【場所】コンベンションセンター(吹田キャンパス)
【講演者】安藤 忠雄
建築家/東京大学名誉教授



第7回 12月16日(月) 16:30～18:00
(受付開始16:00から)
【場所】コンベンションセンター(吹田キャンパス)
【講演者】千 玄室
裏千家 第15代・前家元/ユネスコ親善大使



第6回 11月18日(月) 17:00～18:30
(受付開始16:30から)
【場所】大阪大学会館(豊中キャンパス)
【講演者】西岡 郁夫
株式会社イノベーション・研究所 代表取締役社長/丸の内「西岡塾」塾長



第8回 1月20日(月) 17:00～18:30
(受付開始16:30から)
【場所】大阪大学会館(豊中キャンパス)
【講演者】佐川 真人
インターメタリックス株式会社 最高技術顧問/ネオジム磁石発明者

問合せ先: 未来戦略支援事務室総務係
TEL: 06-6879-4897 FAX: 06-6879-4899 E-mail: mirai-talk2013@iai.osaka-u.ac.jp

大阪大学の集い

毎年恒例となった「大阪大学の集い」を今年も師走の東京で開催します。皆さんで大阪大学での思い出話を花を咲かせ、大阪大学の今を知り、そしてこれからの大阪大学についてお話しませんか。ぜひ、ご友人お誘いあわせの上、ご参加ください。最新情報は本学公式ウェブページで随時ご案内いたします。



<榎原美樹 氏> 1987年大阪大学文学部卒業。同年NHKに入局。ヨーロッパ総局、報道局国際部、パンコック支局、ニューヨーク総局等に勤務。「NHKニュース10」のキャスター、特派員としてアメリカの9・11同時多発テロ、アフガン戦争、イラク戦争、アメリカ大統領選挙の取材などで活躍。



<山之内重美 氏> 大阪外国語大学ロシア語科と早稲田大学露文科学修士課程でロシア文学・演劇を専攻。俳優を経て、現在は歌手&研究者としてロシア大衆文化の実相を発信し続けている。コンサート活動と並行し、早稲田大・中央大講師を務める。

開催日: 12月5日(木) 18:00～(受付17:00～)
開催場所: 学士会館(東京都千代田区神田錦町3-28)
内容: ・大阪大学の近況報告 平野俊夫 総長
・大阪大学同窓会連合会からの挨拶 熊谷信昭会長
・卒業生による講演
「グローバル化の波と日本～OSAKAの進む道考察」
榎原美樹 NHK国際放送局World News部 副部長
・交流会 総会司会 山之内重美(大阪外国語大学卒業)
問合せ先: 広報・社会学連携オフィス社会学連携部社会学連携第二係(中之島センター内) TEL: 06-6444-2136、2137

第54回まちかね祭

大阪大学豊中キャンパスで開催される「まちかね祭」では、例年、日頃のクラブ・サークル活動における成果の発表やステージでのライブ、スポーツ大会、研究室開放、模擬店などの企画が行われ、本学学生だけでなく学外からの多くの来訪者で賑わっています。54回目を迎える今年のまちかね祭では、「一祭合す」というテーマをかがけました。一つの祭りに大阪大学の全員の才能を集めよう、という思いが込められたこのテーマ通り素晴らしい大学祭となるよう、学生一同日々活動しております。皆様のご参加をお待ちしております。
開催期間: 11月2日(土)～11月4日(祝)
問合せ先: 大阪大学大祭中央実行委員会
TEL/FAX: 06-6841-6025



大学博物館、街に出来る これでもいいのか?大阪のミュージアム ー地域文化と学術研究の担い手を目指してー



開催日時: 11月9日(土) 13:30～17:00
開催場所: 中之島センター10階
佐治敬三メモリアルホール
参加方法: 定員: 150名 参加費: 無料
事前申込み不要、当日先着順(開場13時～)
問合せ先: 総合学術博物館 TEL: 06-6850-6715

Handai-Asahi 中之島塾(10～12月期)



開催日: 11月2日(土)～12月16日(月)
開催場所: 中之島センター
講演者等: ①森下竜一(医学系研究科・教授)②深尾葉子(経済学研究科・准教授)③小矢野哲夫(言語文化研究科・教授)
④七五三木聡(医学系研究科・准教授)(全2回)⑤小川一夫(社会経済研究所・教授)⑥金水敏(文学研究科・教授)
参加方法: 朝日カルチャーセンター中之島教室のウェブページまたは電話(06-6222-5224)により申込(随時受付)。
参加費用: 受講料1,575円(全2回の講座は3,150円)朝日カルチャーセンター入会金は不要。
問合せ先: 21世紀懐徳堂 TEL: 06-6850-6443

International Symposium "Towards Comprehensive Understanding of Immune Dynamism (TCUID 2013)"



開催日: 11月18日(月)～20日(水)
開催場所: 融合型生命科学総合研究棟1階 谷口記念講堂(11月18日)
銀杏会館(11月19日～20日)
参加方法: TCUID 2013ホームページから参加登録
参加費用: 参加費無料、但し、レセプション代3,000円(学生は無料)
問合せ先: TCUID 2013事務局(大型教育研究プロジェクト支援室内)
TEL: 06-6879-4786 E-mail: tcuid2013-rep@ml.office.osaka-u.ac.jp

表現者と科学者の分野を超えたイベント「UNLIMITED: 科学の新たな地平をひらく」



開催日: ①11月23日(土) 14:00～16:00 ②12月7日(土) 14:00～15:30
開催場所: 大阪大学会館1階 21世紀懐徳堂スタジオ
対談名等: ①「声を語る/言葉を聴く」金水 敏(文学研究科・教授)×巻上公一(歌手)
②「演劇・リアリティの地平線」金谷一朗(工学研究科・准教授)×ウォーリー木下(演出家)
参加方法: E-Mail(kagaku@21c-kaitokudo.osaka-u.ac.jp)またはFAX(06-6850-6449)にて申込。
※各対談につき定員80名 ※未就学児童は入場できません。
問合せ先: 21世紀懐徳堂 TEL: 06-6850-6443

第5回 大阪大学・大阪音楽大学ジョイント企画 レクチャーコンサート「奏でる物理学」



開催日: 11月30日(土) 14:00～15:30(開場13:30)
開催場所: 大阪音楽大学 ミレニアムホール(豊中市野田町36-1)
講演者等: 菊池誠(サイバーメディアセンター・教授/ギター、テルミン)、児嶋佐織(テルミン)、片岡リサ(大阪音楽大学・講師/箏)
参加方法: 定員300名(入場無料・要事前申込・定員になり次第締切)
web申込フォームから参加登録(「第5回 阪大音大ジョイント企画」で検索可能)
問合せ先: 21世紀懐徳堂 TEL: 06-6850-6443

大阪大学×大阪ガス「アカデミックキング」vol.41 「こまった時には自分を食べる? タコもびっくりオートファジー」



開催日: 12月26日(木) 18:30～21:00
開催場所: 大阪ガスクッキングスクール千里(豊中市新千里東町1-3-141 せんちゅうPAL1F)
講演者等: 吉森保(医学系研究科/生命機能研究科・教授)
参加方法: 大阪ガスクッキングスクール千里ウェブページ(11/1～)または電話(11/7～)により申込(締切11/20)。定員24名。
15歳以上どなたでも参加可(申込多数の場合は抽選)。受講料2,000円。
問合せ先: 申込は、大阪ガスクッキングスクール千里 TEL: 06-6871-8561
講座内容についての問合せは21世紀懐徳堂 TEL: 06-6850-6443

第28回大阪大学大学院基礎工学研究科 産学交流会「待兼山から産まれた科学と技術」

開催日時: 11月20日(水) 13:00～19:00
開催場所: 大阪商工会議所 401号会議室
参加方法: 大阪商工会議所ウェブページから申込
参加費用: 講演会無料 懇親会2,000円
問合せ先: 基礎工学研究科産学連携室
E-mail: sangaku-jimu@es.osaka-u.ac.jp

ええ声募集中(第23回大阪大学学生生活調査)

大阪大学では、10月1日(火)～31日(木)の期間で学生生活調査を実施しています。この調査は、本学学生の生活状況や要望を把握し、その結果を福利厚生・課外活動の充実や改善及びこれらの施設の整備等に役立てるための基礎資料となります。全学部生・大学院生を対象に、学務情報システムKOANを利用して調査を行います。学生の皆さんの意見(阪大をええ方に変えるあなたの声＝ええ声)をお待ちしていますので、本調査へのご協力をお願いします。回答者のうち、応募いただいた方の中から抽選で2名にiPad mini、4名にKindle Paperwhite、100名に図書カード2,000円分をプレゼントします。
問合せ先: 学生部学生・キャリア支援課総務係 TEL: 06-6879-7162

大阪大学未来基金 「ワンコイン募金キャンペーン」がスタート

10月1日(火)、大阪大学生協(豊中地区福利棟)前で、大阪大学未来基金「ワンコイン募金キャンペーン」の開始式を行いました。当日は、平野俊夫総長、各理事らが出席し、「創立100周年(2031年)に向けて大阪大学が世界トップ10と未来基金100億円募金を実現するために、教職員、学生のみなさんの積極的なご支援をお願いしたい」と、平野総長から挨拶がありました。このあと、平野総長から集まった人たちにワンコイン(500円)募金を呼びかけ、寄付者には「大阪大学 News Letter 2011-2013」が手渡されました。



募金をする学生と平野総長

「大阪大学 News Letter 2011-2013」を刊行

本書は、2011年8月の平野総長就任から2年間の足跡をまとめ(大阪大学ニューズレターを再編集)、本学が175年前の原点『適塾』から、22世紀にも輝き続ける大阪大学の姿、未来のかたちを描いていただけると思います。

「大阪大学 News Letter 2011-2013」は、各キャンパスの生協書籍コーナーに置かれ、ワンコイン募金と引き換えに手に入れることができます。



「大阪大学感謝の集い」を開催

10月7日(月)、中之島センターで「大阪大学感謝の集い」を開催しました。この集いは、大阪大学未来基金に高額の寄付をいただいた方を招き、感謝の意を表すために実施しています。

当日は47名の出席があり、報告会と懇親会を実施しました。報告会では、恵比須繁之理事・副学長から大学の近況について、大竹文雄理事・副学長から、未来基金の活動状況について報告があり、未来基金の支援を受けた学生による成果発表が行われました。



成果を発表する学生

懇親会では、熊谷信昭元総長と平野俊夫総長からお礼の挨拶があり、寄付者の方々と大阪大学との絆を深める機会となりました。

「大阪大学未来基金」へのご寄付のお願い

大阪大学では、学術研究や教育・人材育成を目的とする「大阪大学未来基金」を設けております。大阪大学の未来を支えるため、企業、団体、個人のみなさまからのご支援をお願い申し上げます。詳しくは、未来基金のウェブページをご覧ください。

【問い合わせ】

大阪大学基金事務局

TEL: 06-6879-8327/FAX: 06-6879-4337

Email: kikin@office.osaka-u.ac.jp

<http://www.miraikikin.osaka-u.ac.jp>

